

ろうかん

『北里録音蠟管』公開記念講演会

～大谷大学公開講演会

2019年度統一テーマ
「人が育つということ」

主催：沖縄県立図書館・大谷大学／大谷大学同窓会

1920年に北里闌（きたざとたけし）氏が沖縄本島および先島で採録した「蠟管」を大谷大学が所蔵しています。これはウチナーンチュが残した、もっとも古い音声の一つとなっています。

このたび、この貴重な音源の複製を沖縄県立図書館で公開することになりました。

「沖縄」と「蠟管」、今回は公開にあたりご尽力いただいた方々にお話いただきます。どなたでもご参加いただけますので、多くの皆様のご来場をお待ちしております。

●プロローグ

『北里録音蠟管』音源資料収集の舞台裏

榮野川 敦 氏（うるま市立図書館長）

●第1部

琉球国末期、禁制下における真宗(仏教)布教

～辻遊郭での布教日誌を手がかりに～

福島 栄寿 氏（大谷大学教授）

●第2部

信念の研究者 北里闌の足跡

～悲観もなく、楽観もなし。達観そのものに生きる～

栗国 雄一郎 氏（沖縄タイムス記者）

2019年

期日 **9月1日(日)**

14:00～17:00

※入場無料・事前申込不要

会場 **沖縄県立図書館 3階ホール**

対象 一般・大谷大学同窓生 定員 100名

問合せ 沖縄県立図書館 TEL 098-894-5858 (代)

東本願寺沖縄別院 TEL 098-890-2490

※内容についての問合せは東本願寺(ナガタニ)まで

主催 沖縄県立図書館・大谷大学／大谷大学同窓会

後援 真宗大谷派 東本願寺沖縄別院



蠟管（上）と録音機（右）
※大谷大学博物館提供

Be Real
寄りそう知性



大谷大学

Okinawa
Prefectural
Library
沖縄県立図書館

第1部

琉球国末期、禁制下における真宗(仏教)布教

～辻遊郭での布教日誌を手がかりに～

講師 福島 栄寿 氏
大谷大学教授



【講師プロフィール】

専門：日本近現代史・思想史・宗教史

1965年京都市生。山口大学文科学研究科修士課程、大谷大学大学院博士後期課程。博士(文学)。立命館大学、九州大学大学院などで教える。札幌大谷大学准教授などを経て、2017年より現職。

【著書・論文】『思想史としての「精神主義」』(単著・法蔵館)「仏教者の自己認識と内地雑居論－日本人論・日本文化論の視点を手がかりに－」(印度哲学仏教学第23号)「現代沖縄と親鸞思想－彫刻家・金城実をめぐる－」(真宗総合研究所紀要第32号)他

【講演概要】

琉球国末期、琉球へ浄土真宗の布教に渡った僧侶たちがいた。田原法水(1843～1927)が、その第一人者として有名だが、近年、田原に同行した清原競秀(1820～1877)の日誌『日々琉行之記』が発見された。そこには、清原が明治9年11月16日に那覇港に上陸して以降、辻遊郭で行った布教活動の様子が記録されている。従来、真宗僧たちの布教活動の実態については不明な点も多かった。今回は、近年発見された『日々琉行之記』を手がかりに、辻遊廓での真宗布教とジュリたちとの交流について、その一端を明らかにしたい。

第2部

信念の研究者 北里闌の足跡

～悲観もなく、楽観もなし。

達観そのものに生きる～

講師 栗国 雄一郎 氏
沖縄タイムス記者



【講師プロフィール】

1973東京生まれ。98年沖縄タイムス社入社、沖縄移住。社会部、宜野湾支局、中部支社、政経部な

どを経て現在、学芸部文化担当。大谷大学図書館が収蔵している「北里録音蠟管」に、1920(大正9)年に録音された沖縄の歌謡があることを伝えた1月1日付の記事の取材・執筆を担当。



【講演概要】

1920年から31年にかけて、日本語の語源をたどり、沖縄、台湾、フィリピン、そして東北、北海道、樺太を旅した在野の言語学者、北里闌(きたさと・たけし)。古くからその土地に伝わる歌には、言葉の原型が残っていると考えた北里は、蓄音機をかついで、蠟管レコードと呼ばれる録音機材に各地の歌謡を採録して回りました。およそ1世紀、その蠟管を守り続けているのが大谷大学図書館です。沖縄で録音したとみられる蠟管の音源からは、ノイズと共に、叙情豊かな庶民の歌声がよみがえります。沖縄県立図書館がこのほど、大谷大学の協力を得て音源の複製を収蔵、一般公開を始めました。北里の半生と“里帰り”した音源の魅力をお伝えします。

Be Real 寄りそう知性 大谷大学



大谷大学・大谷大学同窓会では、毎年統一テーマを設定し、全国約80カ所で公開講演会を開催しています。

Okinawa Prefectural Library
沖縄県立図書館